

1 ASEANは「軍事同盟」ではなく、「地域協力機構」

東南アジア諸国連合（ASEAN）は「日米安保条約」や「北大西洋条約機構（NATO）」とは違い、軍事同盟・軍事機構ではありません。ASEANはこの地域の諸国間の「地域協力機構」です。

インドネシアのスカルノ大統領がインドのネルー首相らとの協議を踏まえて開催した1955年のアジア・アフリカ会議（バンドン会議）が植民地主義の崩壊を宣言し、東南アジア諸国が自立した協力組織を模索する中で、東南アジアの5カ国（タイ、フィリピン、シンガポール、マレーシア、インドネシア）が1967年8月にASEANを創立しました。

ASEAN創立宣言（バンコク宣言）前文はその目的を「外部の干渉から各国の安定と安全を守る」ことにあると宣言しました。ベトナム戦争最中（さなか）であり、戦争拡大を避けるために、1971年にはASEAN特別外相会議で「東南アジア平和自由中立地帯宣言（ZOPFAN）」を採択しました。ベトナム戦争中はタイとフィリピンに米軍基地があり、米軍がベトナム攻撃に使用していました。バンコク宣言前文は「すべて外国の基地は、暫定的なもの」であり、「域内諸国の独立と自由を破壊する目的で使用すべきではない」と述べ、将来的には撤去するべきものとしていました。

1975年のベトナム戦争終結後、タイで青年・学生の米軍基地撤去運動が高まり、米軍基地を1976年に撤去しました。フィリピンの米軍基地も民主化闘争の前進を背景に上院での激論の末、米軍基地期

限延長を否決し、1992年に在比米軍基地を撤去しました。1998年米国はフィリピン政府との間で「訪問米軍に関する地位協定」を締結し、米軍が同地で活動を再開していますが、現在日本のような恒常的な米軍基地はありません。

ASEAN創立者の一人、タイのタナット・コーマン元外相は2000年6月、バンコクの自宅でインタビューに応じ（写真）、「私たちは欧米の力に頼らないで、自分達自身の力で対処することを決意した。アジアには米国主導のNATOのよう



タナット・コーマンさん（右）と鈴木

な軍事機構はいらない。われわれにはASEANがある。これで十分です」と語りました。ASEAN発展の功労者、マレーシアのマハティール元首相は「日米安保条約の強化が軍拡競争を引き起こす」と軍事同盟を一貫して批判してきました。

2 ASEANの拡大と質的な発展

5カ国で発足したASEANの加盟国が拡大に転じたのは、1984年のブルネイの加盟を別にすれば、ASEANも貢献したカンボジア和平協定締結（1991年）でカンボジア内戦が収まって以降です。1999年までにインドシナ3国とミャンマーの4カ国が加盟し、全東南アジアを網羅する「ASEAN10」を実現しました。（2022年11月のプノンペンでの首脳会議は東ティモールの加盟を原則承認し、オブザー